

第121回日本眼科学会総会

モーニングセミナー10

Conventional Outflowの 眼圧制御を整理する： 基礎と臨床の融合

日時

2017年4月8日(土) 7:45~8:45

会場

第6会場(ホールD7) 東京国際フォーラム
〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目5番1号

座長

谷原 秀信 先生

熊本大学大学院 生命科学研究部
眼科学分野 教授



【座長のことば】

眼圧の調節には房水の循環が深く関与しています。ROCK阻害薬は、線維柱帯-シュレム管、すなわち主流出路からの房水流出を促進させて眼圧を下降させる薬剤ですが、この臨床応用に伴い主流出路の房水制御機構に関する理解が求められるようになりました。ROCK阻害薬の線維柱帯、シュレム管内皮に対する基礎的検討は多数報告されていますが、臨床的にはどの程度わかっているのでしょうか。そもそも、主流出路の房水制御機構はどこまでわかっているのでしょうか。

こういった疑問に答えるべく、今回のセミナーを企画しました。薬物療法だけでなく、流出路再建術にも役立つ情報をお話いただけたと思います。皆様のご参加を心待ちにしております。

講演
1

どこまでわかっている？
主流出路の房水制御

演者

相原 一 先生

東京大学医学部 眼科学教室 教授



講演
2

ROCK阻害薬のヒト細胞外
マトリクスに対する作用

演者

永原 幸 先生

東海大学医学部付属八王子病院
眼科 教授



講演
3

実地臨床からみた
リパスジルの眼圧下降効果

演者

中村 誠 先生

神戸大学大学院医学研究科
眼科学分野 教授

